

2007年2月13日プレスリリース

Ref.: 1049

<http://www.iso.org/iso/en/commcentre/pressreleases/2007/Ref1049.html>

将来の社会的責任規格 ISO 26000 が明確な転換期を迎える

社会的責任についてのガイダンスを提示する ISO26000 の規格開発が、参加している幅広いステークホルダーの間でコンセンサスと信頼を相互に得たという観点から明確な転換期を迎えた。

これは、2007年1月29日から2月2日にオーストラリアのシドニーで開催された第四回 ISO 社会的責任作業部会 (ISO/WG SR) 総会でのリーダーシップの評価であった。

ISO メンバー54 カ国、国際機関 28 組織から約 275 名が、産業界、政府、労働、消費者、非政府組織、サービス・サポート・研究・その他の分野を代表し参加した。シドニー総会で目立ったことは、途上国からの専門家の参加が増加したことであった。途上国ワークショップもプログラムに含まれていた。

総会の主な活動の一つは、2006年10月に回付された ISO26000 第二次作業原案について WG SR の専門家から寄せられた 5176 件のコメントから特定したキートピックスへの取り組みであった。

シドニーにて合意された中核課題は次の4つに分類された (各々の中核課題に対して原案作成チームが設置され、メンバーが任命された):

- 環境
- 人権と労働慣行
- 組織統治と公正な事業活動
- 消費者課題とコミュニティ参画/社会開発

2007年11月の第5回総会前にコメントを求めて回付するため、第三次作業原案の作成作業が現在も続いている。

この作業原案(WD)の段階では個々のエキスパート間でコンセンサスを形成することが必要である。一方、規格の開発が進み、委員会原案(CD)となる次の段階では、参加している各国標準化機関と国際機関との、コンセンサスを形成することが目標とされている。

スウェーデンの ISO メンバー、スウェーデン規格協会によって任命されたスタファン ソダーバーク副議長は、「信頼を構築できたことは、この総会の重要な功績であった。シドニー総会は、私達を正しい道へと向わせた転換期として、記憶に残る会議となるであろう。」と述べている。

シドニー総会はオーストラリア規格協会によって主催され、ジョン キャッスル議長が WG SR に対して正式に歓迎の意を表明した。この総会の目的には、規格化プロセスの説明責任の強化、手順の明確化、及び参加促進があった。最後の目的(参加促進)に沿って、WG SR は、UN グローバルコンパクトの決定(UN グローバルコンパクトは最近 WG SR との協力を高めるため覚書に署名をした)及びそのネットワーク(WG SR の国内「ミラー」委員会との関係を構築して協働する)に対して歓迎の意を表明した。

ブラジルの ISO メンバー、ブラジル規格協会によって任命されたジョージ カジャゼイラ議長は「多くの世界のリーダー、多くの国々そして関連するステークホルダーが、組織に対して、労働力、コミュニティ、そして環境に対する義務を認識するよう、意見を述べている。シドニー総会の後、ISO26000 が全ての種類の組織の社会的責任行動を向上する手助けとして貢献するであろうことを、私はより一層確信している。」と述べている。

なお、ISO/WG SR は ISO SR トラストファンドの設立を終え、現在は ISO/WG SR の作業を支援する資金援助を受け付けている。

今後の ISO/WG SR 総会は、

- ・2007 年 11 月 5 日から 9 日 オーストリア ウィーン市にて、オーストリア政府とオーストリア開発庁(ADA)、UN グローバルコンパクトと国連工業開発機関(UNIDO)の支援を受け、オーストリア規格協会(ON)の主催で開催される。
- ・2008 年 チリ サンチャゴ市 チリ標準化協会(INN)の主催により開催される。

編集者への注:

ISO/WG SR と ISO26000 についての詳しい情報は公開ウェブサイト: www.iso.org/sr で入手することができる。作業文書へ公開アクセスすることができる: www.iso.org/wgsr

プレスコンタクト先:

ロジャー フロスト

マネージャー, コミュニケーションサービス

マーケティング & コミュニケーション

電話: +41 22 749 01 11

ファックス: +41 22 733 34 30

E メール: frost@iso.org